

中大生の「知性」と「行動特性」を高める

『C-compass』

社会で活躍できる力を

インターネットで自己評価

就業力育成教育プログラムで

6月から全学に導入

平野廣和・キャリア教育委員会委員長(総合政策学部教授)に聞く

聞き手／構成 法学部4年 石川可南子十編集室

自分は社会で活躍できる力をどの程度持っているのだろうか。「社会人基礎力」あるいは「就業力」が求められているなかで、こうした自問に答える学生自己評価システム『C-compass』が6月、全学に導入された。6項目28のキーワードに分類された「行動特性」、その5段階の到達度をインターネットを使って学生自身が点検できるシステムで、力を養成する授業科目や課外行事を一覧にしたプロジェクトも提示される。この先進的な取り組みに携わったキャリア教育委員会委員長の平野廣和・総合政策学部教授に、そのポイントを聞いた。

—— 就業力育成教育プログラム

ムとして、「知性」と「行動特性」を高めるために学生自身が社会人として必要な能力のレベルをインターネットを使って自由に点検するシステム「C-compass (CHUO competency assessment system)」が6月13日から全学で運用開始されました。はじめに、そのシステムのねらいについてお聞かせください。

自分を知らない、高校4年生

平野 「C-compass」をつくった考えの根本には、学生諸君が自分自身を知らないということがいざばんだ大きくありました。学生に自分で自分のことを知ってもらう。とくに社会人になって活躍できる能力をいまま、どの程度身につけているかに気付けてもらう、そのためのシステムが「C-compass」です。私は1年生の必修科目を担当していて感じるのですが、学生が「生徒」のままなのです。大学生になっていない。

—— 高校生のまま?

平野 そう、高校生のままなのです。大学1年生が高校4年生という



平野廣和教授

感じます。大学に入ると、自由があるかわりに責任を持たされるようになりませんよ。我々の年代だと授業をさぼってマージャンに行ったりして、授業をさぼったことに対して必ず自分が責任を持ってそれを回復するというをやっています。

今の学生諸君はそうではなくて、与えられたものをこなしていくこと

はできても自分から何かやろうということができない。何をやったらいいかが分からないで、全部与えられたことをこなしていく。自分から一歩前へ出るという意識がない。これは中央大学の学生だけではなく、全国どの大学でも同じではないかと思えます。

だから、「C-compass」で、まず自分が今どのレベルにあるかを知っ

てもらおう。それから自分でプランニングして、「行動特性」と言っていますが、コンピテンシーを高めてもらうというわけです。—— 一般的に高校までは1つの問いに対して正解は1つ。でも大学、とくに社会に出ると正解は1つとは限らない。答えがいくつもある

といった中で、大学時代に「行動特性」を身につける必要があること自体、学生は気付いていないのかなと思います。そもそも学生がそこに気付くにはどうしたらいいのでしょうか。

責任を持って自分で行動する

平野 まず責任を持つことからはじまると思います。すべての自分の行動に対して責任を持つ。日本は20歳が成人ですが、実際には18歳から責任を持たされることがありますよね。大学に入学するのは一般に18歳ですから、そこから責任を持って自分で行動する。

責任を持って行動をすれば、石川さんがおっしゃったように解答は1つではない。複数解答も出てくる。そこを早く知ってほしい。世の中というのは、すべて合理性だけで通るものではないということです。今までは、皆さんはお父さん、お母さんに、その他の人に守られてきたわけですから一人前になるためにはそこから一歩前へ出ていかなければならない、ということだと思っております。

—— それに気付かせるのが「C-compass」というシステムだと思います。平野 はい。自分を知って欲しいのです。この「C-compass」は自己評価します。高等学校までは成績や活動評価にしても全て先生が見た評価ですよ。自分で自分を評価するという機会はなかったと思います。自分が見た評価と外から見た評価との乖離、これも早く知って欲しいのです。

—— 私が就職活動中の面接で困ったのは、「どういう失敗をしましたか」という質問でした。自分なりに失敗したと思う経験を話すのですが、「そんなの失敗の内ではないね、他には？」と言われて、結局自分の失敗談が尽きて「ぬくぬく育ってきました。すみません」で終わってしまった。すごく自信を失う面接が多かったことがあります。平野 自分と社会では評価が違ってくるということです。私が30年前に就職活動をしているときにもそういうことを言われました。それはもう、30年前の人から見れば、今の若い人は過保護に見えるでしょう。

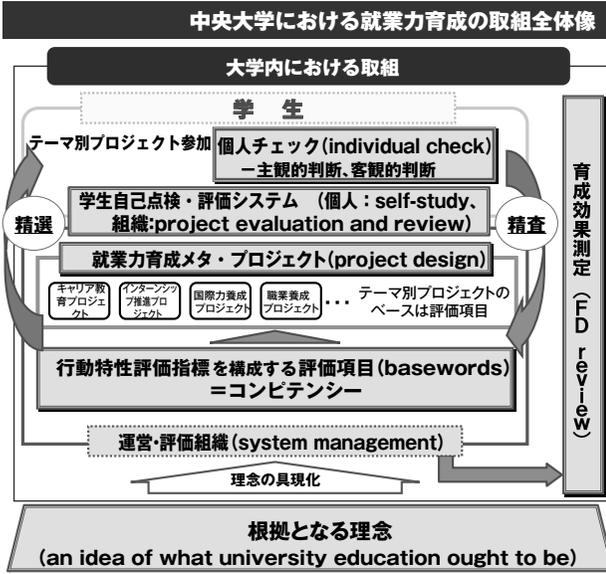
大学進学率の上昇と入試改革

「社会人基礎力」とか「就業力」とか、よく聞きますが、いままんでしきりに言われるようになったのでしょうか。

平野 経済産業省が2006年に「社会人基礎力」、文部科学省が2007年に「学力」、2010年に「就業力」を言うようになりました。その背景には、(2002年以来の)40%を超える大学進学率の上昇と



育成效果測定 (FD Review)



根拠となる理念

(an idea of what university education ought to be)

大学入試制度の改革などで、大学に入ってくる学生の質がばらばらになつてきたといふことがあると思ひます。もう1つは、産業構造の変化や国際化などで第一次産業、第二次産業よりも第三次産業の比率が非常に高くなつて、社会が求める能力がコミュニケーション能力など、対人折衝能力にかなり収斂してきていることがあります。それに携帯電話やインターネット

の普及などでコミュニケーションのあり方が変わってきましたね。ただ、どんなに時代が移つてもやはりコアになる部分は同じだと思ひます。

例えば人とときんど話ができるとか。それからプレゼンテーション能力と言われますが、人に対し自分の考えを分かり易く表現をすることができるのかは、社会人として最低限持つていて欲しいものです。

ところが大学生になるまでに日常生活を通じて自然に身に着けていはずの社会人基礎力が大学生になつても備わつていない。先程も言つた高校4年生なんです。

—— そういう問題意識で教育プログラムに取り組みはじめたのはいつごろからですか。

平野 10年ほど前にキャリア教育委員会の準備会ができて、先程も言つたように、生徒から学生になりきれないというところから議論がはじまりました。その中で理工学部の牧野光則先生がG P (Good Practice II 文部科学省の大学教育支援プログラム) に応募されて、「C-compass」の元となるものをつ

くられました。理工学部の情報工学科の学生を対象に、その能力を知るためにつくつたのがスタートです。

—— 理工学部がスタートですか。
平野 はい。それが5年ほど前に全学に展開できないかということになつて、キャリアデザインノートに、原形になるものを載せ始めたのが2009年度からです。翌年の2010年度には、大学生の就業力育成支援事業として『知性(専門知識・技術)×行動特性(実地応用する力)』による就業力育成教育がスタートしました。

6項目28のキーワードを点検

—— 全学的な就業力育成教育にあたっては、どんな話し合いがあつたのですか。

平野 私達のご父兄の前でも学生の品質保証と言つていますが、学生という商品に磨きをかけ、高品質にしてご父兄にお返しする。それが大学としての1つの使命だと考えています。学力のほかに、社会人としての「行動特性」のレベルを上げることも大学としての責任です。



「C-compass」は「ずっ

と多いですね。

平野 はい、卒業生に求められるコンピテンシー（行動特性）は中央大学が独自で定義しました。

詳細に6項目28のキーワードで定義して、それぞれのキーワードについて到達度を5段階（ルーブリック）に分けてありますので、全部で140項目になりま

「C-compass をぜひ活用して欲しい」と平野教授

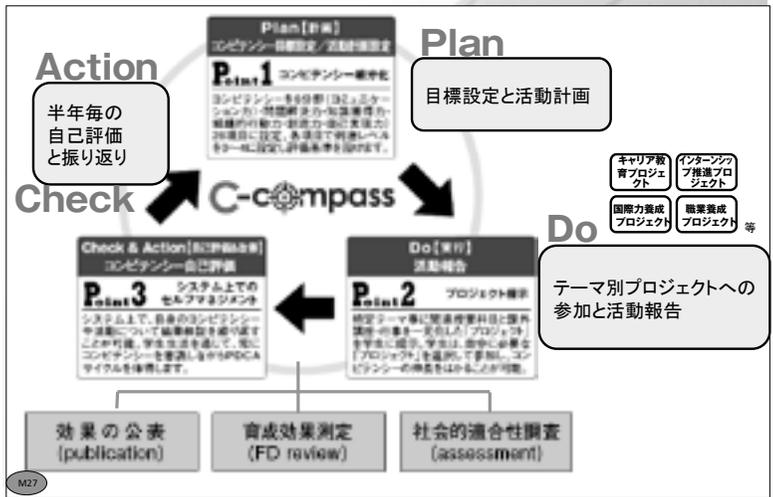
「C-compass」では、Plan

（目標設定と計画）、Do（テーマ別プロジェクトへの参加と活動報告）、Check&Action（半期ごとの自己評価と振り返り）のサイクルで、「行動特性」を高めるようになっています。経産省の社会人基礎力は3パターンで12の能力要素ですが、

ころが特徴です。

何か0というところとすぐ劣っているように思われるのですが、0はスタートの意味で0にしているわけです。大学に入ってここが0レベル、これがスタートだよと。大学生としてのスタートだよということであえて1と言わない。レベル4は大学卒

中央大学 コンピテンシー自己評価システム No.2



私も自己評価

をやってみたのですが、率直に言ってもかなり難しいという印象を受けました。細かすぎて、例えば議論の目標と言っても、何を想定すればいいのかとか、課題とは何かとか、あてはめるのがかなり難しいと思いました。

平野 細かく書いてあるのがルーブリックの特徴で、一字一句を読んでもらうことも必要なのです。文章が短いとパーッと見ていってしまう。今の学生諸君は文字を読まないですから、あえて細かく

ではなくて修士課程2年が終わったところを目指しています。アメリカの大学では90年代に、専門教育の中で行動特性を見るためにルーブリックを取り入れています。実は最近、日本の中学校の学習指導要領にもこれが入ってきています。

書いたものを読んでもらいたいというところです。あくまでも自己評価ですから、課題などは自分で考えて欲しいのです。今まで皆さんがやってきた評価は統一的なフォーマットがあって、誰が見ても画一的に同じレベル評価に

なると思います。そうではなくて
ループリックは自分で評価しますか
ら、自分がレベル2だと思ってい
ても周りはレベル3かもしれない。1
かもしれない。0かもしれない。そ
れを半年ごとに振り返ることによ
って、実行し、見直していつて欲しい
のです。

目標設定し活動計画たてる

—— 自分のレベルを点検して自
分の足りないところがわかったら目
標を設定して、実行D.Oに移るわけ
ですが、そのプロジェクトは学生に
どう提供されるのでしょうか。

平野 自分を磨くためにはまず自
分から進んで1歩前へ出ることが大
切で、それをシステム上で誘導して
いるのが活動計画です。例えばキャ
リア教育プロジェクトがある、ある
いはインターンシップ推進プロジェ
クト、アクセスメントプロジェクトと
いう自己発見レポートがあります。
理工学部のWISEプロジェクト
(WISE = Women in Science and
Engineering) は女性研究者を育成
するものです。職業養成プロジェクト

ト、公務員の養成講座もあります。
これらプロジェクトが一覧表に
なって提示されます。自分が足りな
いところに気付いたら、一覧表を見
て、これを受講すればいい、といっ
たことが分かるようにしてあります。
—— 学生一人一人に合ったプロ
ジェクトは検索できないのでしよ
うか。

平野 実はこのシステムはまだ発
展途上なのです。今は一覧表です
が、行動特性の1つ1つのキーワー
ドを軸にした検索システムをつくり
キーワードを入力すると、それを伸
ばせるような大学が用意した取り組
みが出てくる。それを1個1個具体
的に見ていって、自分はこれをやっ
てみようといったところに誘導でき
るようなものを二次開発でやろうと
思っています。

例えば自分は傾聴力と知識獲得力
の中の応用力を伸ばしたいとしたら、
そのキーワードを入れると、それを
伸ばすために必要な取り組みが一覧
で出てくる。そのようなデータベー
スを作ろうと思っています。これは
今年度中に作ります。

システム拡充は3年計画でやって
いますが、それにはデータベースが
欲しいのです。「Ccompass」を使っ
た学生諸君のデータベースが集まっ
てくれば、同じような行動特性が分
かりますね。そうしたら過去にはこ
ういうものを選んだから、これがい
いですよと指示できるようになるわ
けです。

「備えあれば憂いなし」

—— 中央大学の建学の精神は
「實地応用の素を養う」と教えられ
ましたが、「Ccompass」は建学の
精神に立っているように感じました。

平野 はい、その通りです。建学
の精神を大前提にしています。これ
をみてください。システムをつくる
ときに、最初にコピーライツしたの
がこれです。「實地応用の素を養う」
という建学の精神から導き出して、
「就業力」「知性×行動特性」「実
地応用力」と書いてあります。

「知性」だけではなく、「行動」
する。行動というのは社会に出て行
く、社会を知ることでもある
わけです。「知性」と「行動」を掛

け合わせたものが「就業力」であっ
て、それは「実学」を培うという中
央大学の建学の精神でもあるのです。
「行動する知性」(Knowledge into
Action)にも通じています。

このコピーライツは、GPの申請
のときに、中央大学のオリジナルリ
ティを出さなければならぬという
議論になったときに考え出されまし
た。私は理科系出身ですから「×」
とか「||」が好きなもので、ぱつと見て
「ああ、なるほど」と分かってもら
えるものをつくってみたかったです。

—— 「Ccompass」を活用する
メリットは。

平野 「備えあれば憂いなし」で
す。何もしないで3年次になって就
職戦線であたふたするのがいいのか
1年生のときから自分の評価をして
自分のウイークポイントを見つけて
新たに自分を補っていくという努力
を日々してれば、3年間あれば必ず
一人前の人間になってくると思うの
です。

「Ccompass」に大きな時間を取
られるわけではありません。お金が



インタビューする学生記者（左）と平野教授（右）

そんなにかかるわけではない。学内のプロジェクトであれば、他学部履修は自分の履修単位の中でできるし、課外授業であってもそんなに高いも

のではありません。就活間際になって、学外の学校に通うことに比べたら雲泥の差があるはずですよ。今の学生諸君はダブルスクール

に通うことで安心感があるようです。みんな、小学生のころから塾に通っていた。石川さんも塾に通っていたでしょう。

—— はい。

平野 塾に行つて、学校で教わつたことを教わると安心しなかつたですか。私は早くそれを払拭したいのです。大学の中ではちゃんとそれができる。わざわざダブルスクール、塾に通わなくてもいい。学外で就職のための面接講座なんかをやっているでしょう。高い

お金を払ってみんな行っていますよね。それは今必要になってしまったからみんな慌てふためくわけですよ。やはり『アリとキリギリス』ではないですが、アリのようにちゃんとやっついていかないと。

今後、さらにシステム拡充へ

—— 私は大学1年から行政研究会に所属して、キャリアセンターの公務員講座も取りまくって、とてもよかつたと思っています。ほかの大学の人は中央大学は公務員試験に対する支援がすごく充実しているんでしようとも言われました。

平野 公務員対策は充実していますね。そのほかにも自分が必要と思ういろいろなプロジェクトが選べるので、とにかく学生諸君に「Compass」を使ってもらいたい。学生に使ってもらって、それでデータを集めて、システム拡充につながれば、後輩のためにもなるし、自分のためにもなりますから、ぜひ使っていたください。

—— 先程も言いましたが、もう少し使いやすくなるとよいと思います。

す。

平野 学生アンケートで「Compass」について聞くと、「知らなかった」「使いづらい」「抽象的で分からない」という回答が結構あったので、その点は徐々に改善していくつもりです。

いま、手元に企業が新卒者の入社時にどれぐらいのレベルの能力を求めているかについて、企業1200社を対象にアンケートを取って、300社ぐらいから回収したデータがあります。その結果を総合的、統計的に公表して、先生たちに理解をいただいて授業の改善など中央大学のプレゼンスを高めるために役立てたいと思っています。

「Compass」はそのためのデータになるので、みなさんに「Compass」を使ってもらい、行動に移して成果に結び付けてほしいです。多少使いづらいところもあるかもしれませんが、社会に出るうえで絶対に役に立つので、ぜひアクセスしてください。

（このインタビューは9月27日に行いました）

学生に示している行動特性のレベル一覧です。

- これを読んでいる今、自分がそれぞれの項目についてどの程度の力があると感じているか、下記の表にチェックして確認してみよう。そして、大学生活を過ごす上でどのような力が求められるのかを知ろう。
- これらの力はすべて、将来仕事をする上でも必要となる能力であるとともに、学生時代に伸ばすことのできる能力だと理解する必要がある。
- 自分の今の力を知ること、これらの力を意識して過ごすことにより、授業やゼミの中でも課外活動の中でも自分の力を発揮していくことを心掛けよう。
- 学生生活の中で時期を変えて何度かこの表を使って自分のコンピテンシーをチェックしてみよう。どんな力がどの程度伸びたのかを客観的に知ることにより、そこから次のステップに進んでほしい。

レベル2	レベル3	レベル4	Checkしてみよう!			大学生生活とキャリアデザイン・ノートを利用しよう *赤字は大学やキャリアセンターの行事またはキャリアデザイン・ノートのワークを示しています。
			年次月	年次月	年次月	
相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで円滑なコミュニケーションを図っている	相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている	様々な説明の方法や手段を駆使し、意見の異なる相手との相互理解を得ている				
相手の意見を十分理解している	相手の意見を十分理解し、自分と異なる意見にも耳を傾けている	相手の意見を十分理解し、自分と異なる意見にも耳を傾け尊重している				大学生活のどの場面でも伸ばすことが可能。まずは人の話を最後までよく聞くことを意識しよう。能力開発講座（コミュニケーション力）にも参加しよう。
記述された内容のある程度理解している	記述された内容を理解している	記述された内容を十分理解している				教科書や資料を読む中で身につけよう。また、どんな分野でも興味がある本はどんどん読もう。
正しい文章で、他人が十分理解できるよう記述することができる	正しい文章で、他人が十分理解できる記述となるよう工夫をしている	正しい文章で、他人が十分理解できる記述となるよう秀でた工夫をしている				授業やゼミのレポート作成、インターンシップのエントリーシート作成などで力をつける。自分が伝えたいこと、相手が知りたいことを表現できているか意識しよう。
効果的な手順・手段を用いてわかりやすく説明できている	適切な手順・手段を用いてわかりやすく説明したうえで、自分の意見を効果的に伝えている	適切な手順・手段を用いてわかりやすく説明したうえで、自分の意見を効果的に伝え、自分と異なる意見を持つ相手からも十分な理解を得ている				MCP 学生主体プログラム (P11参照) に自分の企画を持ち込もう。キャリアに関する企画ならキャリアセンターがバックアップ。能力開発講座（プレゼンテーション力）にも参加しよう。
議論の目標を設定し、それに合わせて議論を展開している	議論の目標を設定し、それに合わせて、自分と異なる意見を持つ相手とも議論を展開している	議論の目標を設定し、それに合わせて、自分と異なる意見を持つ相手とも議論を展開し相互理解を得ている				少人数授業の中で主体的に関わっていくことで力をつけよう。議論の目標を意識し、意見の違う相手との相互理解のためにどうしたらいいか考えて発言する。
自ら発見した課題、もしくは与えられた課題を正しく理解している。解決策を立て、実行している	自ら課題を発見し、解決策を立て、実行している。実行結果は検証し、計画の見直しや次の計画に反映している	自ら課題を発見し、最善の解決策を選択し、計画的に実行している。その結果を多面的に検証し次の計画に反映している				
現状と目標を把握し、その間にあるギャップの中に問題を見つけている	現状と目標を把握し、その間にあるギャップの中から、解決すべき課題を見つけ出している	現状と目標を把握し、その間にあるギャップの中から、解決すべき課題を見つけ出し優先順位付けができている				Note4で目標を書き出してみよう。長期（将来）の目標と、その目標に近づくための短期（学生時代）の目標を考えよう。
課題の因果関係を理解し、そこから本質を見出そうと努力している	課題の因果関係を理解し、本質を見出している	課題の因果関係を理解し、かつ、本質を見出した上で、解決の方向性を認識している				Note4で見つけた目標に対してどう取り組めば実現に近づくか。短期の目標はNote7,8でPDCAサイクルで振り返ろう。
複雑な事象を整理し、構造化できる	複雑な事象を整理し、構造化できる。自分の意見や手順を論理的に展開できる	複雑な事象を整理し、構造化できる。意見や手順を論理的に展開し、相手を納得させることができる				物事を整理し、順序立てて組み立てて考えているか意識しよう。相手が納得できるようにどう伝えるか考えて発言。能力開発講座（問題解決力）にも参加しよう。
目的と目標を設定し、計画を立ててそれを実行している	目的と目標を設定し、計画を立て、その計画通りに実行している	目的と目標を設定し、複数の方法から最善の方法を選択し、計画を立て実行している				Note7,8で課題を見つけたらNote15を使って目標に向けて計画を立て、それを具体的に実行していこう。

《ご参考》 これは、中央大学が展開している就業力育成教育の中で、

豊かな人生のために～キャリアデザインのすすめ～

行動特性を知る

求められる行動特性と自分の今のレベルを確認しよう

学生生活を過ごす上でも、学びの場でも求められる役割がどの程度のレベルなのか知ろう。

今の自分のレベルを知り、どんな力があるのか、どんな力をこれからつけたいのか。

時期を変えて何度かチェックしていく中で、能力は自分次第で伸ばせることに気づくだろう。

コンピテンシー定義一覧

キーワード別 詳細定義	定義	レベル0	レベル1
コミュニケーション力	他人の意見あるいは記述された文章を正しく理解したうえで、それに対する自分の意見を明確に表現する。効果的な説明方法や手段を用いて、関係者を納得させる	相手を理解し、相手に自分の意見を伝えることができない	相手の意見を一通り理解し、相手に自分の意見を一通り伝えている
傾聴力	他人の意見を聞き、正しく理解し、尊重する	意見を聞き、理解することができていない	相手の意見を一通り理解している
読解力	記述された内容を正しく理解する	記述された内容を理解できていない	記述された内容を理解しようとしている
記述力	正しい文章で他人が理解できるように記述する	記述された文章を他人が理解できない、あるいは記述された文章に重大な誤りがある	正しい文章で、他人が一通り理解できるよう記述することができる
提案力	適切な手順・手段を用いてわかりやすく説明したうえで、自分の意見を効果的に伝える	効果的な手順・手段を用いてわかりやすく説明できない	効果的な手順・手段を用いてわかりやすく説明しようとしている
議論力	議論の目標を設定し、それに合わせて議論を展開する	一方的な主張に終わっている。あるいは意見を述べていない、誤った意見のために議論にならない	議論の目標を設定し、それに合わせて議論を展開しようとしている
問題解決力	課題を正しく理解する。解決策を立て実行する。その結果を検証し、計画の見直しや次の計画への反映を行う	与えられた課題を正しく理解できない	与えられた課題を正しく理解し、解決を行おうとしている
課題発見	現状と目標（あるべき姿）を把握し、その間にあるギャップの中から、解決すべき課題を見つけ出す	与えられた課題を正しく理解できない	与えられた課題を正しく理解できている
課題分析	課題の因果関係を理解し、真の原因（本質）を見出す	課題の因果関係や本質を理解できない、または、見出せない	課題の因果関係や本質を理解しようと見出す努力をしている
論理的思考	複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。論理的に自分の意見や手順を構築・展開できる	複雑な事象を整理し、構造化できない	複雑な事象を整理し、構造化しようと努力している
計画実行	目的と目標を設定し、順序立てて計画して確実に実行する	場当たり的な行動をしている	目的と目標を設定し、計画を立てているが、計画倒れで実行イメージが伴わない

			Checkしてみよう!			大学生活とキャリアデザイン・ノート を利用しよう *赤字は大学やキャリアセンターの行事 またはキャリアデザイン・ノートの ワークを示しています。
レベル2	レベル3	レベル4	年次 月	年次 月	年次 月	
結果を正しく評価している	結果を正しく評価し、計画の見直しや次期計画への反映を行なっている	結果を正しく多面的に評価し、計画の見直しや次期計画への反映を行なっている				Note7,8で書いた学びや取り組みを振り返り結果を確認しよう。そこから次への課題を見つけ出そう。
収集した情報を精査し、知識やノウハウを習得し関連付けて活用している	深く広く情報収集に努め取捨選択した上で、知識やノウハウを習得し、関連付けて活用している	継続的に深く広く情報収集に努め、取捨選択した上で、知識やノウハウを習得し、関連付け他者が思いつかない形で活用している				
自ら新しい知識やノウハウの習得に努めている	専門知識のみならず自然科学および人文社会科学に関するものも含めて、幅広い分野で、深く知識やノウハウを習得している	専門知識のみならず、自然科学および人文社会科学に関するものも含めて、幅広い分野で、知識やノウハウを深く習得することを継続している				履修している授業のシラバスをもう一度読み直し、授業の目的を再確認しよう。Note5,Note6で興味のある分野・科目も調べよう。
入手した知識やノウハウを関連付けて活用している	入手した知識やノウハウを関連付け、自ら工夫して活用している	入手した知識やノウハウを関連付け、他者が思いつかない形で活用している				授業のレポート作成やゼミでの勉強などを通して、自分なりに学んだことを活用し、さらに高いレベルの課題に取り組もう。
情報を入手し、精査している	工夫して情報を入手し精査した上で、取捨選択して自分のものとしている	様々な手段を駆使し、情報を入手している。信頼性が高い情報のみを選択して自分のものとしている				興味を持ったことや与えられた課題について様々な情報があるはず。情報がどこにあるか考え、実際に調べてみよう。
チームでの作業、行動において共通の目標を理解し、達成するために当事者意識を持って行動する	チーム、組織の目標を達成するために何をすべきか、複数の視点から多面的、客観的に捉え、適切な判断を下し、当事者意識をもって行動する。その際、他者とお互いの意見を尊重し、信頼関係を築くような行動をとる	チーム、組織の目標を達成するために何をすべきか、関係者の利害を幅広く考慮したうえで適切な判断を下し、自ら進んで行動を起こすだけでなく、目指すべき方向性を示し、他を導いている				
複数の視点から多面的、客観的に物事を捉えている	複数の視点から多面的、客観的に物事を捉えた適切な判断を基に行動している	複数の視点から多面的、客観的に物事を捉え、影響範囲や関係者の利害を幅広く考慮したうえで適切な判断を下し、それを基に行動している				いろいろな角度からものごとを考えることが必要であると意識する。組織の中では自分とは違う意見についてなぜそうなのか考えてみよう。FLPで興味のあるプログラムに対し多面的に取り組もう。
個人の役割を理解し、当事者意識を持って行動している	個人の役割を理解し、当事者意識を持って行動する。また状況によって役割を柔軟に変え行動する	基本的な役割を理解したうえで行動する。また状況ごとに役割を柔軟に変え、役割を超えた働きをする				Note2で強み、弱みを振り返ることを通して、自分がどんな役割だったか、今後どのような役割を担いたいのか考え、意識して行動しよう。
何も言われなくても行動は起こすが、単なるマニュアル的行動をとる	物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動している	物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動し、その行動に工夫・独自性が見える				Note10,11で書き出した強みを、どうしたら組織の中で活かせるか考えて、自分から行動をおこそう。
チームでの作業、行動において共通の目標を理解し達成するため行動できる	チームでの作業、行動をするとき、共通の目標を達成するためお互いの考えを尊重し、信頼関係を築くような行動をとる	チームでの作業、行動をするとき、共通の目標を達成するためお互いを尊重し、信頼関係を構築・維持しようと自ら工夫して行動する				仲間との信頼関係を築き、目標達成のために自分がどうすべきか考えよう。
先に立って実践している	先に立って実践している。先に立って模範を示し、他を誘導している	先に立って実践している。先に立って模範を示し、他を誘導している。さらに目指すべき方向性を示し、他を導いている				待つことから一歩踏み出し、自分から行動して周りに働きかけてみよう。ゼミやサークル活動などで試してみよう。
自分の専門内外に関わらず幅広い知的好奇心を持ち新たな知識を意欲的に取り入れ、物事に取り組もうとする	知的好奇心を発揮して様々な専門内外のことに関心をもち、それらから着想を得て今までになかった新しいアイデアを発想することができる。その際、関連法令を遵守し、倫理観を持って社会に対して負っている責任を果たす	知的好奇心を発揮して様々な専門内外のことに関心をもち、それらから着想を得て社会に貢献するような独自のアイデアを発想することができる。その際、関連法令を遵守し、倫理観を持って社会に対して負っている責任を果たす				

コンピテンシー定義一覧

キーワード別 詳細定義	定義	レベル0	レベル1
検証	計画して実行した結果を正しく評価し、計画の見直しや次期計画への反映を行う	結果を検証していない	結果を一通り検証している
知識獲得力	継続的に深く広く情報収集に努め、取捨選択した上で、知識やノウハウを習得し、関連付けて活用する	自ら情報収集し、新しい知識やノウハウを習得することができていない	一通り情報収集し、新しい知識やノウハウを習得することができている
学習	専門知識のみならず自然科学および人文社会科学に関するものも含めて、幅広い分野で知識やノウハウを深く習得することを継続する	自ら新しい知識やノウハウを習得できていない	限定的な知識やノウハウの習得に留まっている
応用力	入手した知識やノウハウを関連付けて活用する	入手した知識やノウハウが関連付けられていない	入手した情報や知識やノウハウが一通り関連付けられている
情報収集力	必要な情報を入手し、精査した上で、取捨選択して自分のものとする	必要な情報が入手できない	通り一遍の情報入手に留まっている
組織的行動能力	チーム、組織の目標を達成するために何をすべきか、複数の視点から多面的、客観的に捉え、適切な判断を下し、当事者意識をもって行動する。その際、他者とお互いの考えを尊重し、信頼関係を築いてそれを維持しつつ行動する	チームで作業ができない自己中心的な行動をとる	指示されると作業できるが、目標を達成するために自ら動かない
バランス力	複数の視点から、多面的、客観的に物事を捉えた適切な判断を基に行動する	視野が狭く、周りが見えない。偏った考え方をする	事実に基づいた視点で客観的に物事を捉えている
役割認識	チーム、組織の目標を達成するために個人の役割を理解し、当事者意識を持って行動する	自分の役割を認識していない	自分の役割を認識しているが、行動に移せない
主体性	物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動する	誰かに指示されてもやらない、できない	誰かに指示されたことのみ行っている
協働	共通の目標を達成するためにお互いの考えを尊重し、信頼関係を築くような行動をとる	チームで作業ができない自己中心的な行動をする	チームで作業できるが、目標を達成するために自ら動かない
率先力	先に立って実践する。先に立って模範を示し、他を誘導する	行動しない	他者に従って、あるいは真似をして行動している
創造力	知的好奇心を発揮して様々な専門内外のことに関心を持ちそれらから着想を得て今までになかった新しいアイデアを発想する。その際、関連法令を遵守し、倫理観を持って社会に対して負っている責任を果たす	新しい発想や技術を知っても興味を持たない	普段から自分が興味のある分野について情報収集し、新しい発想や技術に関心を払っている

			Checkしてみよう!			大学生生活とキャリアデザイン・ノートを利用しよう *赤字は大学やキャリアセンターの行事またはキャリアデザイン・ノートのワークを示しています。
レベル2	レベル3	レベル4	年次月	年次月	年次月	
自分で適切なデータを収集・参照し、新しい考え方で物事に取り組む	経験したことがないことでも既存の枠にとらわれず、今までに無かった新しいアイデアを生み出すことができる	これからの社会に示唆を与え貢献するような、独自のアイデアを生み出すことができる				MCPプログラムの学生企画を考えてみよう。自分のやりたいテーマについて他の学生のニーズやデータを調べて企画アイデアを生み出そう。
既知の事柄をもとにして経験のないことや将来起こりうることを推し量る	前例のないことについて将来起こりうることを推し量る	前例のないことについて将来起こりうることを複数通り推し量る				新しい企画アイデアを実現するために必要なこと、実現に際して起こりうることを考えてみよう。能力開発講座（プロデュース力）で模擬体験もできる。
すぐれた芸術や技術、あるいは斬新なアイデアに接して強い印象を受け心を奪われる	すぐれた芸術や技術、あるいは、斬新なアイデアに接して強い印象を受け、新たな取り組みの原動力とする	すぐれた芸術や技術、あるいは、斬新なアイデアに接して強い印象を受け、積極的に新たな取り組みの原動力とする				学内外で芸術や技術に触れる機会を持つ。学生部でも多くの企画があるのでチェックしよう。
自分の専門内外に関わらず幅広い知的好奇心を持ち、新たな知識を取り入れようと、一部は実際に行動している	自分の専門内外に関わらず幅広い知的好奇心を持ち、新たな知識を意欲的に取り入れようと、実際に行動している	自分の専門内外に関わらず幅広い知的好奇心を持ち、新たな知識を意欲的に取り入れようと、積極的に行動している				授業や興味を持ったこと、与えられた課題についてなぜそうなのか好奇心を持ち実際に行動し、知識を得よう。
関連法令を理解して遵守している。自らの取り組みや仕事が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会に対して負っている責任を認識している	関連法令を理解して遵守している。自らの取り組みや仕事が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会に対して負っている責任を認識し、一部は実際に行動している	関連法令を理解して遵守している。自らの取り組みや仕事が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会に対して負っている責任を認識し、その責任を果たす				Note3で自分の価値基準を知ろう。また興味がある企業のCSRがキャリアセンターにあれば読んでコンプライアンスについても考えよう。
自ら明確な目標を定め、その実現のために道筋を考え、努力する。その際自己管理を怠らない	自らを高めるため、常に新しい目標を求め、その実現のために道筋を考え、努力する。その際、自己管理と改善のための工夫を怠らない	自らを高めるため、常に新しい目標を探しており、見つけるとその達成のために最短の道筋を考えてそれをたどるために努力する。失敗してもあきらめず、繰り返し挑戦する				
明確な目標を設定することができる	自らを高めるための適切な目標を設定し、さらにそれを達成するための具体的な指標を設定することができる	継続的に自らを高めるための適切な目標を設定し、さらにそれを達成するための具体的なかつ最適な指標を設定することができる				Note15を記入してみる。さらにそれを実行するための具体的な行動計画を考えよう。
スケジュール意識があり、メモを取る。行動計画の立案はできるが、突発的な事態に対応できない	行動計画の立案ができ、突発的な事態に対応できる	行動計画の立案ができる。突発的な事態に臨機応変に対応し、必要に応じて適切な対応、調整ができる				Note15で作った行動計画を実行するためのスケジュールを長期計画(1年)とそれを実現するための短期計画(1～3か月)の両方でたててみよう。
日常生活の管理を行っている。定期的に健康診断を受け、普段の生活に生かして体調を崩さないようにする	日常生活の管理を行っている。定期的な健康診断を受け、その結果を踏まえて健康維持のための積極的な取り組みを行っている	日常生活の管理を行っている。定期的な健康診断を受け、その結果を踏まえて健康維持のための積極的な取り組みを継続的にしている				日々の生活を振り返り、まずは自己管理の大切さを知る。健康維持のための具体的な行動を起こそう。
普段から自分のストレスを意識的にチェックし、自分に合った方法で解消することができる	普段から自分のストレスを意識的にチェックし、自分に合った方法で上手に解消することができる	普段から自分のストレスを意識的にチェックし、自分に合った方法で解消したり低減したりすることができる				Note1のライフラインチャートを書いてみよう。これまでを振り返り、どんなときにストレスを感じるかを知り、その解消方法を考えよう。
普段から新しい目標を求めており、自分で設定してそれを達成しようと努力する	普段から新しい目標を求めており、自分で設定してそれを達成しようと努力する。そのための道筋を立て、改善のための工夫を怠らない	普段から新しい目標を求めており、自分で設定してそれを達成しようと努力する。失敗しても効果的な改善を行い、あきらめず繰り返し挑戦する				Note 9を使って、目標と今の自分の距離を知り、大きな目標とそのため小さな目標をたて、小さな目標達成の積み重ねを達成していくことを意識しよう。

この表は、中央大学理工学部と日本アイ・ビー・エム株式会社（日本IBM）／アイ・ビー・エム ビジネスコンサルティング サービス株式会社（IBCS）が協同で開発したコンペティンシー育成プログラムの一部を参考にして、キャリアセンターにて作成したものです。

コンピテンシー定義一覧

キーワード別 詳細定義	定義	レベル0	レベル1
発想する力	既存の枠にとらわれず、今までに無かった新しいアイデアを生み出す	新しい考え方を持とうとしない	ヒントを与えられた場合新しい考え方で物事にとり組む
推論する力	経験のないことや将来起こりうることを推し量る	経験のないことや将来起こりうることを推し量ることができない	既知の事柄をもとにして経験のないことや将来起こりうることを推し量ろうとする
感動する力	すぐれた芸術や技術、あるいは斬新なアイデアに接して強い印象を受け、新たな取り組みの原動力とする	すぐれた芸術や技術、あるいは斬新なアイデアに興味を持たない	すぐれた芸術や技術、あるいは斬新なアイデアに興味を持つ
探求する意欲	旺盛な知的好奇心を持ち、専門であるなしに関わらず、未知の知識を取り入れようとする	新たな知識を得ようという姿勢を持たない	普段から自分が興味のある分野について情報収集の努力をしている
倫理	関連法令遵守。自らの取り組みや仕事が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会に対して負っている責任を果たす	関連法令を理解していない	関連法令を理解して遵守している
自己実現力	自らを高めるため、常に新しい目標を求め、その実現のために道筋を考え、努力する。その際、自己管理と改善のための工夫を怠らない	目標を見つけようと思わず与えられても達成しようとししない	目標があるとそれを達成したいと思ひ努力する
目標設定	自らを高めるための適切な目標を設定する	目標を設定することができない	おぼろげな目標を設定することができる
スケジュール管理	目標の実現のために適切な行動計画を立案し、計画遂行のために（メモを取るなどの）スケジュール意識を持って行動する	スケジュール意識がない いつ何をしなければならぬかを把握していない	スケジュール意識はあるがメモを取らない。いつ何をしなければならぬかを理解しているが一部できない
自己管理	目標達成のために必要な日常生活の管理（時間管理、衛生管理、健康管理、金銭管理など）を行い、適時的確な行動を取る	日常生活の管理を怠っている	日常生活の管理を行っている
ストレスコントロール	ストレスと上手に付き合い、それによる悪影響を最小に抑える	ストレスの解消法を知らず溜め込んでしまう	ストレスが溜まると察知して解消するか、これ以上蓄積しないよう行動する
達成志向	普段から新しい目標を求めており、自分で設定してそれを達成しようと道筋を立て、努力する。改善のための工夫をする	目標が与えられても達成しようと努力しない。最初からあきらめている。すぐにあきらめる	目標が与えられるとそれを達成しようと努力する

*これらの項目について、どのように判断すれば分からない人もいだろう。そういう時は自己理解セミナーで自分についての理解を深めよう。

*インターンシップはこれらの能力をレベルアップするチャンス。興味ある企業や組織のインターンシップに挑戦しよう。